



柳町こどもの森での生活

保育長 長下部 佐織

寒暖差が大きかった4月が過ぎ、新緑のまぶしい5月となりました。新入園のお子さんも進級のお子さんそれぞれのペースで新しい環境に慣れてきた姿が見られます。

ひよこ組のエピソードです。登園時に離れることが嫌で泣いている子どもたちに、保育者は抱っこをしながら「バイバイしたくなかったね」などと思いを代弁し不安な気持ちに寄り添っていました。子どもたちも、泣きながらも保育者の目をじっと見つめ、「この人はどんな人だろう?」と、保育者の表情を読み取ろうとしていました。その様な日々を過ごす中で、子どもたちは保育者の優しいまなざしと穏やかな声から受け止めてもらっている安心を感じたようです。少しずつ笑顔を見せてくれるようになった姿に、子どもたちとの信頼関係の芽生えてきたことを感じ嬉しく思いました。

乳幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期です。「自分を見てくれている」という安心感をベースに自分のしたいことを伸び伸びと楽しむことが大切です。その子らしさを大切に子どもの主体的な遊びを尊重していきたいと思っています。また、乳児期は保育者の援助を受けながらも自分でできることが増えていきます。保育者と一緒に喜びながら信頼と自信を深めていく過程も大切に、保護者の皆様にも丁寧に姿を伝え共有をしていきたいと思っています。

新園舎の工事に伴い、引き続き園庭での遊びが行えない状況ですが、屋上での遊びや散歩などの戸外遊びを取り入れていくことも大切にしていきたいと思っています。また、室内でも乳幼児が体を動かして遊べるように工夫してきた環境構成の継続と、活動量の充実を図っていきたいと思っています。子どもたちの健やかな成長のため、教職員皆で話し合いながら、柳町こどもの森ならではの、子どもたちが毎日楽しく過ごすことができる園作りをしていきたいと思っています。